

お 泉 水

1986年10月15日

◆第52回 IFLA大会盛大に開催 世界の63か国1,811名参加

8月24日から29日まで6日間、東京・青山学院大学を主会場に〈21世紀への図書館〉をメインテーマにかかげて、第52回国際図書館連盟(IFLA)東京大会が開かれた。国際図書館連盟は図書館の国際団体で、同連盟の年次大会が日本で開かれたのは、今回が初めてである。参加者は63ヵ国、1,811人(8月22日現在)で、過去最大の規模となった。当県からは4人が参加した。

開会式は25日、国立劇場で皇太子殿下、同妃殿下をお迎えて行われた。永井道雄(東京大会組織委員長)とH・ゲー(IFLA会長)の両氏のあいさつに続き、皇太子殿下のお言葉があった。永井委員長は「新しい情報通信の技術を応用し、図書館の運営とサービスを促進する道すじの研究と発展途上国の図書館の改善のふたつが、21世紀に到達するに先だって取り組むべき主要課題です」と述べ、世界の図書館人に問題提起した。このあと全体会議にうつり、猪瀬博(日本) Hedwig Anuar(シンガポール) 于光遠(中国)の三氏の基調講演があった。部会は「調査図書館」「専門図書館」「公共・学校図書館」など8部会があり、各部会ごとに分科会・ラウンドテーブルが設けられた。言葉の壁を越えて参加者はいま世界の図書館が直面している諸問題について熱心に討議した。閉会式は29日、日本青年館で行われ、多くの成果をあげた第52回大会の幕を閉じた。

◆図書館年鑑東海北陸地区編集 連絡会議開催される

9月5日・6日の両日、岐阜市で「図書館年鑑東海・北陸地区編集連絡会議」が開催され、「1987年版」の編集方針について討議した。基本的には「1986年版」の編集方針に準ずることになり、特に「年間史」・「各館の行事・運営改善」などの情報については、主要なものはもろさず掲載することになった。

なお、62・63年度は当館が北陸ブロックの編集委員を務めることになった。

また、「図書館年鑑」の購入について、日本図書館協会より要望があった。

◆東海北陸地区指定都市立図書館長会議で 名古屋市鶴舞中央図書館を見学

昭和61年度東海北陸地区指定都市立図書館長会議が7月10日・11日の両日名古屋市で開催されたが、第2日目は名古屋市鶴舞中央図書館の見学を行った。人口200万人の名古屋市は現在15図書館を有するが、鶴舞中央図書館はこれらの分館を統轄する機能を持ち、昭和59年3月、総工費37億円をかけて完成、蔵書数50万冊を備えている。コンピューターの導入もカウンター部門を完了し、目録作成へ移っており、先進館として注目を集めている。

◆昭和61年度日本図書館協会関係 全国研究集会

(10月以降分)

区 分	期 日	テ ー マ
整 理 部 門 (岐阜県)	昭和61年10月 23日(木)・24日(金)	公共図書館の電算化 と整理 ＝今なにか問題か＝
奉 仕 部 門 (熊本県)	昭和61年10月 2日(木)・3日(金)	明日をめざす図書館 奉仕の方向をさぐる
参考事務分科会 (京都府)	昭和61年12月 4日(木)・5日(金)	ニューメディア時代における参考事務 ＝情報要求の増大と多様化への対応＝
児童図書館分科会 (神奈川県)	昭和61年10月 14日(火)・15日(水)	すべての子どもに読書のよろこびを ＝現状と課題＝
全国図書館大会 (東京)	昭和62年3月 19日(木)・20日(金)	IFLA東京大会と日本の図書館の方向
東海北陸地区公共図書館研究集会 (三重県)	昭和61年11月 26日(木)・27日(金)	参考事務の現状と諸問題
日本図書館協会 地方講習会(石川県)	昭和61年10月 1日	市町村立図書館の一層の発展のために

新設図書館紹介

敦賀女子短期大学付属図書館

嶺南敦賀の丘に学問の燈が！

本館は、今春4月に、日本史、経営の両学科で開学した嶺南地域で唯一の短大附属図書館です。

両学科の特色から日本史、経営に関する専門書の他に本



学の教育目的の一つでもある、外国語教育との関連から「英語」「朝鮮語」「中国語」及び「ロシア語」に関する図書約2万冊と学術雑誌及び各大学の研究紀要等が整備されています。

館内は、自由に図書を手にすることができる開架式で、明るく落ち着いた70席の閲覧コーナーは、より一層研究心をそそってくれます。

この様な施設の中で、教員と学生が気軽に利用している他、地域に開かれた大学を目指し、一般市民の閲覧も認めています。

ようやく灯った学問の燈がこの嶺南敦賀の地で煌々と大陸を照らす燈台の燈となる様、これからの充実を図っていききたいと思います。

最後に、現在本学の研究紀要『敦賀論叢』（創刊号）の発刊準備が進んでいることをご紹介します。

越廼村立図書館

こしのむらの小さな図書館

昭和58年の4月1日から越廼村には図書館の設置条令が施行せられた。しかし県立図書館よりの配本書を除けば、誠に蔵書も少く、その蔵書を並べる書架の不足や、書架の置場にさえも事欠く状況であったので、図書館と呼ぶのも名ばかりの感であった。新聞や図書館情報で、あちこちの町村に独立図書館の完成を知る度にわが村にも小規模ながら一館欲しいものと念願せずにはいらなかった。一方越廼村の人口は本年の6月末で2,311名で男子1,126名、女子1,185名、戸数は606戸で県内では下位の小村である。それに前は海、後は山で海岸に沿って南北の細長い土地では公共施設の建設場所は容易なことでは求められない。それを約3億7000万円を投じ海岸を埋め立て5階建の住民センターを本年の3月25日に完成し、その1階に図書

館の併置を見たのである。独立館ではないが越廼村には分相応であろうかと按じられる。尚今度の完成を機に特別予算で百万円の蔵書を増やし県立図書館には選書のご指導をいただき、今後は、この図書館を生涯の友として活かし、豊かな人生を築く糧にしたいと思っている。



談話室

所感

まるで図書館らしくない図書館、それが私の現在の職場に対する第一印象でした。夥しい雑誌の量とビデオやオーディオ。何故ビデオまで揃える必要があったのかと言えば、それは学生の不勉強のせいなのでして、余りに閑散とした図書館に活気を呼び戻そう！……それが狙いでした。効果は観面。閑古鳥の鳴いていた図書館は、一転して社交場と化したのです。親しみ易さで商売繁盛、大いに結構。けれども、何か本末顛倒しているような感じがして仕方がないのです。何故、図書館が学生の不勉強に合わせて、脱図書館を計らなければいけないのでしょうか。けれど、それが「図書館活性化への過程」だと言われるのも至極尤もです。図書館は、利用されてこそ図書館。そうした試行錯誤の上に、よりよい図書館が作り上げられるのです。

福井工業大学図書館
奥村美和子

県下四分の計

騒がしかった夏休みが嘘の様な図書館の中で、レファレンスに中断(?)される事なく整理しだしたのは逐次刊行物。現在、青年団の機関紙からグラフ福井まで約500種以上収集されていますが、今は早々からその洪水の中に沈み込んでいるのです。その洪水の中で目に入った「もはや一館での資料収集・蓄積は困難になってきている」という「お泉水」16号の中での図書館員の声。同感、同感。(雑誌などの分担保存は、私が図書館に入ったX年前から聞いていたと思うが…)県内の市町村にこれだけ図書館が建った現在こそ、実行できるのではないだろうか。市立図書館を中心に町村、大学、高校を含めて、福井・坂井地区、奥越、丹南、嶺南のブロックに分け、その中で出版されたものは必ず保存するシステム、名付けて「県(天)下四(三)分の計」。

武生市立図書館
花島常善

学校図書館と公共図書館の ネット化ができないのか？

わたしのいる学校は昨年図書室が改築され、一応の移転を終了した。約2万8千冊の蔵書を持つので、学校図書館としてはかなり多い。しかし旧図書館に入っていたものが、新しい図書館に入りきらない。とくに書庫の面積が狭い。そのスペースの確保は切実な問題となっている。近年各地に立派な公共図書館が出来て、かなりのスペースをもっているものが多い。そこで、県内をいくつかのブロックに分け、特殊な書物や雑誌は特定のところで保管し、それぞれの図書館をネットワーク化していくことができないものかと思う。わたしの学校には“文芸春秋”や“世界”が残っているが、いまさら廃棄するのも惜しいし、場所もない。近くの公共図書館にあるなら安心して廃棄ができるのだが。

鯖江高等学校
斎藤寛昭

振り返る

独立館ができて10年になる。一生懸命やってきたつもりだが、利用者に満足してもらうまでには、まだ程遠い。

三方町における図書館の歴史は長い。昭和26年に県立図書館八村配本所が設置された。これは三方町がまだ誕生する前である。昭和30年には県立図書館の嶺南分館が三方におかれ、蔵書数とも当時としては破格の千冊を超えていた。そして昭和35年には町立図書館の設置条例ができた。

現在、県立図書館のあり方が全国的な話題になっている。しかし三方町について言えば、県立図書館の振興のおかげで、住民は早くから読書の意識に目覚め、図書館の充実に努めてきた。これから、この歴史をどう発展させるか。責任は大きい。

三方町立図書館
河原正実

行事案内コーナー

10月中旬～
62年3月末日まで

▶ 敦賀市立図書館

☆民話の会（図書館友の会） 会場・敦賀市愛発公民館・敦賀市清水町会館 期日・11月8日(土) かたりべ・川島保徳氏・原礼子氏

☆民話の会（図書館友の会） 会場・敦賀市立図書館・敦賀市慈松園 期日・11月9日(日)

☆合同読書会 会場・敦賀市立図書館 期日・11月

▶ 今立町立図書館

☆定例読書会 会場・今立町立図書館 期日・10月14日・11月11日・12月9日

▶ 朝日町立図書館

☆昭和61年度朝日町読書感想文コンクール 締切・62年1月20日(火)

▶ 今庄町立図書館

☆今庄町読書会 会場・南今庄生活改善センター 期日11月初旬

☆読書感想文コンクール 期日・10月中旬～11月中旬

▶ 金津町立図書館

☆合同読書会 会場・金津町中央公民館 期日・10月28日(火)13：30～ 謡曲錦木、三好修一郎氏

☆文学講話 会場・金津町中央公民館 期日・11月19日(木)13：30～ 予定 講師・藤井則行氏 演題・ふるさとと民話

☆古文書展 会場・金津町立図書館 期日・10月21日(火)～11月20日(木) 金津町の宿場文書

☆福井県の民話資料展 会場・金津町立図書館 期日・10月21日(火)～11月20日(木)

▶ 上志比村立図書館

☆読書会 会場・上志比公民館 期日・毎月第2土曜日

☆本リサイクルバザール 会場・上志比公民館 期日・11月上旬

☆文学散歩 若狭方面 期日・10月中旬

☆文学講演会 会場・上志比公民館 期日・3月中旬

▶ 清水町立図書館

☆読書グループ合同文学散歩 滋賀県湖北方面 期日・10月19日(日)

☆読書教育勉強会 会場・清水町立図書館 期日・10月

☆清水むかしばなし 会場・清水町立図書館 期日・11月3日(月) 原画展とよみきかせ

☆定例読書会 会場・清水町立図書館 期日・毎月1回

▶ 三国町立図書館

☆児童読書大会 会場・三国町立図書館 期日・10月25日(土)

☆町読書大会 会場・三国町立図書館 期日・12月

☆合同読書大会 会場・三国町立図書館 期日・2月

▶ 美浜町立図書館

☆文化祭 会場・美浜町中央公民館 期日・未定

▶ 三方町立図書館

☆講演 会場・三方町立図書館 期日・11月22日(土)13：30～ 講師・かこさとし氏 演題・絵本と子どもたち

☆紙芝居の演じ方講習会 会場・三方町立図書館 期日1月未 予定

☆歴史教室 会場・三方町立図書館 期日・2月未 予定 絵図から見た若狭

▶ 県立図書館

☆松平文庫展—史料で見る福井藩展— 会場・県立図書館 期日・10月25日(土)～11月1日(土)

☆県下読書グループ合同読書会（秋季） 会場・織田町中央公民館 期日・10月26日(日)10：00～16：00 テキスト・津村節子著『蟹の爪』

☆第40回読書週間記念大会 会場・県立図書館 期日・11月9日(日)13：20～15：00 読書週間記念第30回読書感想文コンクール入選者表彰式・優良読書グループ表彰状伝達式 講師・県立高志高校教諭・散文学誌『青滋』主宰定道明氏 テーマ・中野重治と文学

☆第3回市町村立図書館職員実務講座 会場・県立図書館 期日・12月18日(木)9：50～11：40

☆福井県図書館関係職員研修会 会場・県立図書館 講師・未定 テーマ・福井県郷土資料分類表（昭和60年改訂）について

☆ふるさとの日記念ロビー企画展 会場・県立図書館 期日・2月

☆文学の会 会場・県立図書館 期日・毎月第3土曜日13：30～15：30

※この行事ご案内には報告いただいたものを掲載しました。

● 事務局から ●

この号から行事案内コーナーを設け、各館から届いた情報をもとに各館主催の行事を紹介することにしました。新設図書館は敦賀女子短期大学と越廼村立図書館を取り上げました。近年、県内では図書館建設があいついでおりまことに心強い限りです。年1回の発行ですが本紙が県内図書館の情報紙として少しでも寄与できれば幸いです。